Pioneer sound.vision.soul

スピーカーシステム

S-3EX
S-3EX-T

取扱説明書

パイオニアの製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。お使いになる前にこの取扱説明書をお読みください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。取扱説明書は後々お役に立つこともありますので「保証書」、「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」と一緒に保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠ 記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。

⃠ 記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。

❗ 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。

地震などによる製品の転倒・落下を防止するために、設置の際は転倒・落下防止対策を必ず行ってください。
詳しくは「設置」（6 ページ）をご覧ください。

ご使用の前に

❗このスピーカーシステムの公称インピーダンスは、6 Ωです。負荷インピーダンスが4 Ω～16 Ωのアンプ（スピーカー出力端子に4 Ω～16 Ωの表示があるもの）へ接続してお使いください。

⚠スピーカーを過大入力による破損から守るため下記の注意事項をお守りください。

- 許容入力以上を入力しない。
- グラフィックイコライザーで高音を大幅に増強する場合、音量を上げすぎない。
- 小出力アンプで無理に大きな音を出さない（アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがある）。

⚠注意

［設置］

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- テレビ、オーディオ機器等に本機を接続する場合は、おのおのの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は市販のコードを使用してください。
- この製品は天井に吊り下げたり壁に掛けたりしないでください。落ちてけがの原因となることがあります。
- 壁や天井に取り付けたり、棚の上など高い所に設置しないでください。グリルは取り外し可能な構造なので、きちんと取り付けていないと、グリルが外れて落ちたりしてけがの原因になることがあります。

［使用方法］

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となったりスピーカーを破損することがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。
- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 鉄などの磁性体を不用意に近づけないでください。同軸ユニット（トゥイーター、ミッドレンジ）には強力な磁気回路を用いています。振動板を破損する恐れがあります。

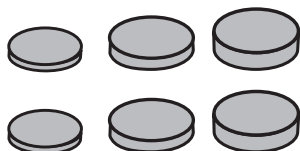
インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

もくじ

付属品の確認

- スパイク受け× 3

- 脚固定用スペーサー（3 種類）× 2

- 固定金具× 1

- 固定金具用ネジ× 1
- グリルネット× 1
- 保証書× 1
- ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内（裏表紙）
- 取扱説明書

EX について

EXシリーズは、パイオニアのフラグシップスピーカーTADの技術思想をふんだんに取り入れ、それぞれの価格帯で、現在望みうる最高のスピーカーを作ることを目的に開発されました。

EX シリーズの開発・設計は、パイオニアのスピーカー技術を結集した、国際的なプロジェクトチームによって行われています。

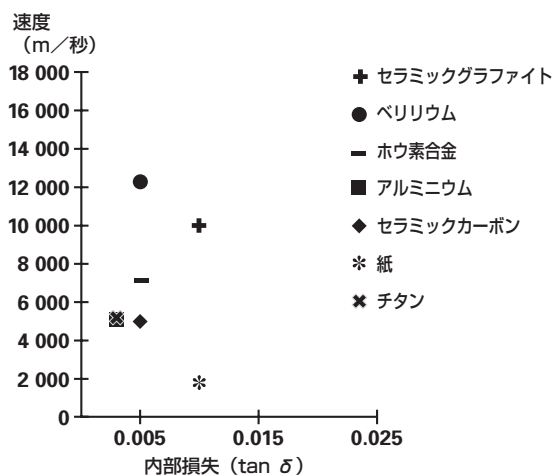
S-3EX のテクノロジー

CST

システムのコアとなるドライバーは TAD の技術を踏襲した、C S T（Coherent Source Transducer）です。トゥイーター・ダイヤフラムがミッドレンジ・コーンの頂点に同軸で取り付けられ、本機では400 Hzから100 kHz の音声を一つのポイントから放射することが可能になります。CSTによってリスナーの耳に達する直接音と間接音の双方で、優れた周波数バランスが保証され、リスニングルームのどこでも均質なサウンドが得られ、臨場感が拡大します。

S-3EX の CST

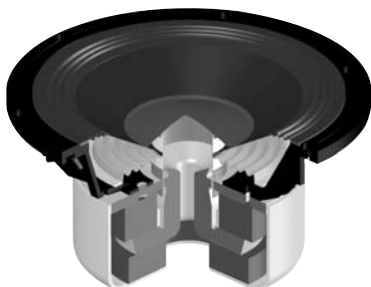
セラミックグラファイト・ダイアフラム

CSTのツイーター部には、セラミックグラファイト・ダイアフラムを採用しています。セラミックグラファイトは、振動板に用いられる材質の中で、最高クラスの強度と内部損失を両立しており、ハイエンドのオーディオスピーカーシステムにおいても、最高クラスの特性を有する素材です。セラミックグラファイトの軽量さと比類ない強度の組み合わせにより、ダイアフラムの共振は可聴範囲を大きく超えたところまで高められます。

セラミックグラファイトとその他の素材の速度特性

マグネシウム合金ダイアフラム

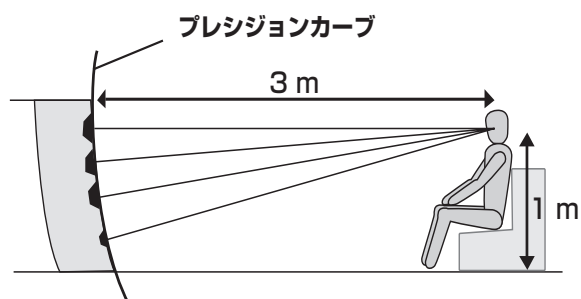
CSTのミッドレンジにはマグネシウム合金ダイアフラムを採用しています。マグネシウムの軽量、高内部損失特性によって、トランジェントが良く、カラーレーションの少ない中音域を再生します。

ウーファー

S-3EXスピーカーシステムの基盤となるのは、下図に示すウーファーです。ダイアフラムは、S-1EXの開発時に生まれたアラミドカーボンコンポジット材を使用し強度を確保。また、小出力から大出力までのリニアリティーを確保するために、パイオニア独自の磁気回路技術LDMCを採用し、歪みの低減を徹底追及しています。

S-3EX のウーファー

エンクロージャーの構造

S-3EXの独特のフォルムは、理論的な必然性より作られています。CSTと2本のウーファーからの音の到達時間を一致させるために、各ドライバーは、プレシジョンカーブと呼ばれる、優美なカーブを描いたバッフル上にマウントされます。（下図参照）

このバッフルは、最大厚さ 80 mm もの MDF 材（中密度繊維板）を特殊技術で加工したもので、強力なドライバーの発生する駆動力をしっかり受け止めます。また、バスレフのポート部は、極厚の MDF のブロックから削り出されたもので、徹底的に風切り音を低減しクリアで深い低音を実現しています。

クロスオーバー・ネットワーク

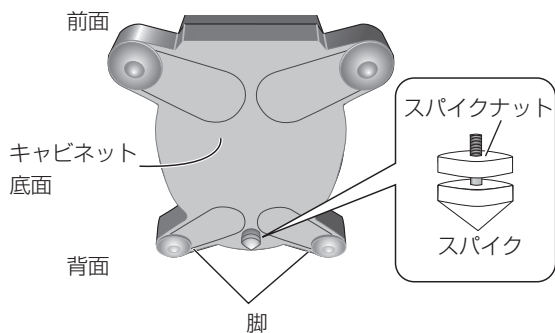
クロスオーバー・ネットワークには厳選された部品のみが使用されています。信号経路内の空芯コイル、無誘導抵抗、フィルムコンデンサーはすべて慎重に選択され、CST ドライバーに最適化されたもので、信号の透過性を最高度に維持しています。ウーファーはケイ素鋼板コアコイルを使用して、エネルギー伝達ロスの最小化と低歪化の両立を実現しました。すべての部品は、プリント基板を使用せず、直接配線材で接続され、損失を極限まで抑えることで、パフォーマンスを最大限に高めています。

「AIR STUDIOS」とのコラボレーション

1969 年、George Martin 氏が英国ロンドンに設立して以来、多くのアーティストから世界最高峰の録音スタジオとして絶対的な信頼を得ている「Air Studios」。S-3EX に与えられた「Air Studios」の紋章は、その世界トップクラスのサウンドクリエイターが求めるクオリティーをも満たしたスピーカーであることの証しです。

設　置

設置のしかた

本機は３点（前面側の２本の脚および背面側中央）のスパイクを使って設置します。

手順

1. スパイクが載る設置場所の部分に、あらかじめ付属のスパイク受けを３カ所置いておく。

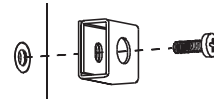
2. スパイク受けの上に本機を置く。

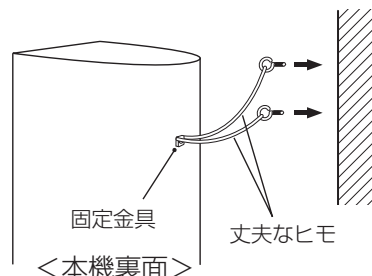
3. 設置面の状況により、背面側中央のスパイクよりも背面側左右いずれかの脚が先に接地してしまう場合は、スパイクが先に接地するように高さを調整する。

4. 本機の背面側の２本の脚と床との間に付属の脚固定用スペーサーを敷いて、スピーカーにガタツキがないようにする。

付属品の中から、適当な厚みのスペーサーを選んで、調整してください。

転倒防止金具の取り付け

- 付属のネジを使って固定金具を裏板のネジ穴に取り付けます。

- 固定金具に丈夫なヒモ（市販）を使用して、確実に本機を柱や壁に固定してください。また、固定する柱や壁は、スピーカーシステムの重量に十分に耐える強度があることを確認してください。固定したあとは、必ず転倒しないことを確認してください。
- 転倒した場合、故障の原因となることがあります。

裏板に取り付けた固定金具を、直接壁に掛けないでください。この金具は転倒防止のため、丈夫なヒモを使用する際にご利用ください。

必ず２本の丈夫なヒモを固定金具に取り付けて、上の方に開いて固定してください。

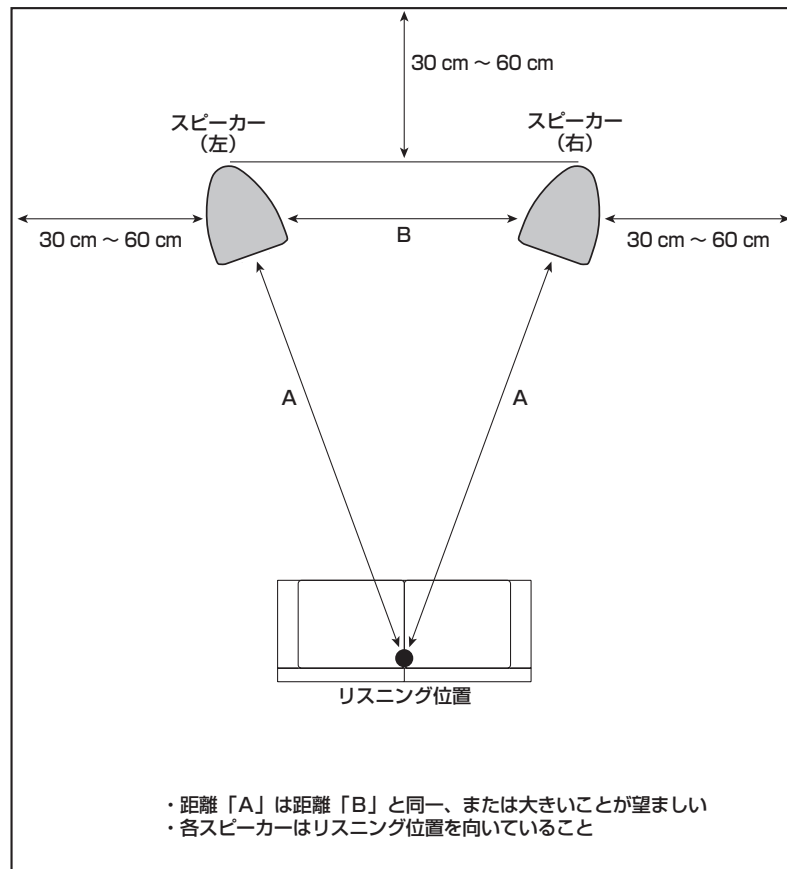
組み立て、取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、改造、天災などによる事故損傷については、弊社は一切責任を負いません。

⚠ 注意

- 本機を設置するときは、必ず転倒・落下防止対策を行ってください。地震などで落ちたり、倒れたりしてけがの原因になることがあります。
- 万一、地震により本機が転倒した際に、寝ている人にケガを負わせる恐れのある場所には設置しないでください。
- 本機は約 48 kg の重量があるため、傾けながらスパイクナットの固定を行なうことは大変危険です。キズのつかない柔らかい布などの上にねかせて、必ず２人以上で作業してください。

スパイク受けを使用せずに本機を設置した場合、設置した床などにキズをつける可能性があります。
設置する際は、スパイク受けを使用することをお勧めします。

設置場所について

リスニングルームでのスピーカーシステムの設置状態は、低音の再生能力、音の正確性、臨場感の面でスピーカーシステムの総合パフォーマンスに大きく影響します。部屋の環境によって設置のしかたが異なりますので、このセクションはガイドのみを目的としています。実際に部屋で設置を試してみることで、最適な結果が得られます。下図の設置例を参考に、最適な位置を探してください。

設置上のご注意

- 本機はキャビネット表面に天然木の突板を使用しております。直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。天然木の収縮によるキャビネットの変形、変色およびスピーカーが故障する原因になります。

接　続

アンプとの接続

接続するにあたって、本機にはスピーカーコードは付属しておりません。よりよい音質でお楽しみいただくために、スピーカーコードは次の点に注意してお選びください。

① できるだけ太い芯線のものを使用し、必要以上に長くしないでください。

② 左右の長さが異なる場合は、長い方に合わせて同じ長さにして使用してください。

③ 種類により固有のキャラクターを持つものがあります。注意してご使用ください。

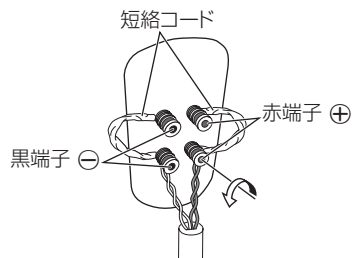
④ 接触抵抗ができるだけ小さくなるように、入力端子とアンプへの接続はしっかり固定してください。

コードの接続

① アンプの電源スイッチを切ってください。
(POWER OFF)

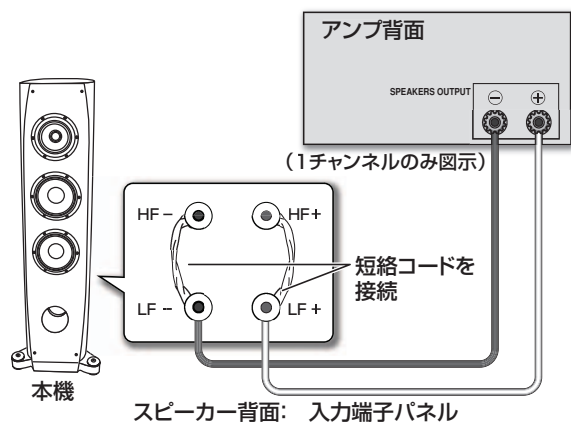
② スピーカーシステム裏側の入力端子(下側)へ、スピーカーコードを接続します。入力端子の極性は赤がプラス(＋)、黒がマイナス(－)です。

③ スピーカーコードをアンプのスピーカー出力端子につなぎます(詳しくは、アンプの取扱説明書をご覧ください)。

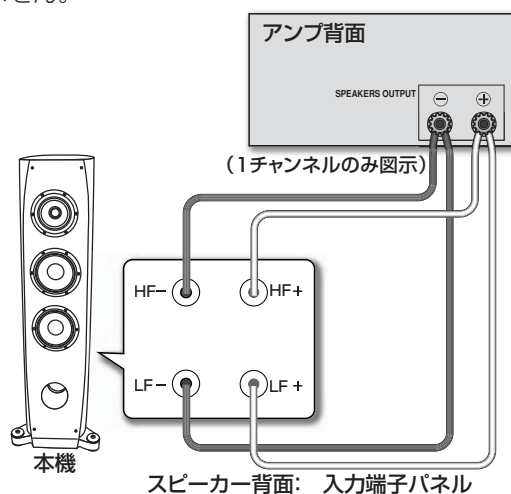
手で下側の入力端子を(左側 ⊂)に回して緩め、スピーカーコードの先端を端子の穴に差し込み、短絡コードと共にツマミを締め付けます。

接続に関してのご注意

- 本機の入力端子はバナナプラグでの接続も可能です。
  バナナプラグをご使用の際は、入力端子の先端のキャップを外してください。
- 端子に接続したあとコードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音が出たりする原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- アンプに接続したときに、片方(右または左)のスピーカーシステムの極性(＋、－)を間違ってつないだ場合、正常なステレオ効果が得られなくなります。

シングルワイヤリング接続

シングルワイヤリング接続をするには、 付属の短絡コードでクロスオーバー・ネットワークの低域（ウーファー再生帯域）と中高域（CST再生帯域）の部分を結合します。下図のように、短絡コードを使用して上下の端子を短絡させ、アンプからの（＋）線をいずれかの赤の接続端子に、アンプからの（－）線をいずれかの黒の接続端子に接続します。

バイワイヤリング接続

バイワイヤリング接続では、アンプからのスピーカーケーブルを個別に低域（ウーファー再生帯域）と中高域（CST再生帯域）に接続します。これにより、本機のウーファー、CSTドライバーが直接アンプに接続され、２つのドライバーに対してケーブルタイプを自由に最適化することができます。

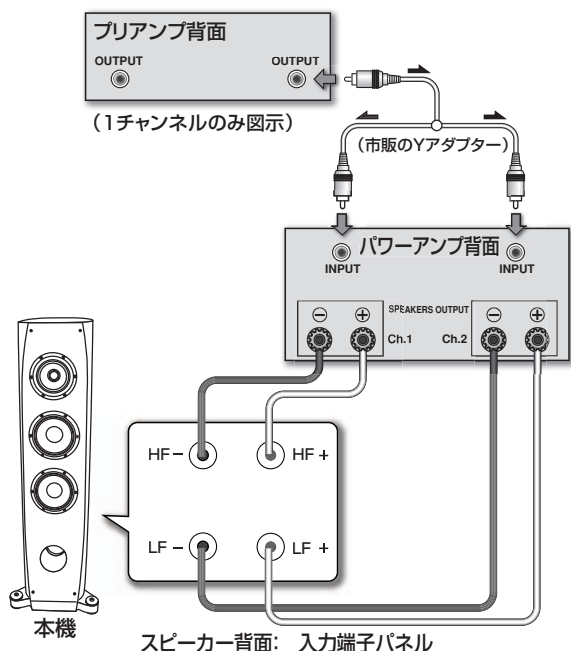
一組のスピーカーケーブルを、接続端子の下の組（ウーファー用ネットワーク）に接続します。そしてもう一組のスピーカーケーブルを、接続端子の上の組（CST用ネットワーク）に接続します。次に二組のスピーカーケーブルをともにアンプの適切な端子に接続します。下図のように、必ずそれぞれケーブルの（＋）側をアンプの（＋）端子に、（－）側をアンプの（－）端子に接続してください。なお、短絡コードは使用しません。

バイアンプ接続

バイアンプ接続は、低域（ウーファー再生帯域）と中高域（CST再生帯域）について、専用のアンプを使用することで、最高のパフォーマンスを発揮できます。以下の２つの接続方法が可能です。また、バイアンプ接続機能を持ったパイオニアAVアンプをお使いの場合もバイアンプ接続をすることができます。詳しい接続や設定については、AVアンプの取扱説明書をご覧ください。

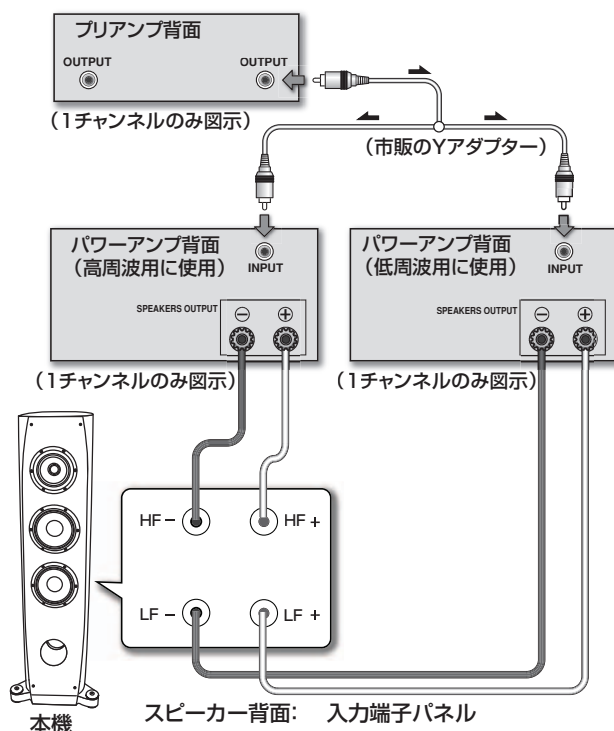
⚠ 注意

- バイアンプ接続をする場合は、スピーカーケーブルを接続する前に付属の短絡コードを取り外してください。アンプを破損する原因となることがあります。

バーチカルバイアンプ接続例

この接続では、２台のステレオアンプを１台のスピーカーシステムに使用します。下図のように、各アンプの１チャネルで低域（ウーファー再生帯域）を駆動し、他のチャネルで中高域（CST再生帯域）を駆動します。一組のスピーカーケーブルとアンプのチャネルを接続端子の下の組（ウーファー用ネットワーク）に接続します。それから２組めのスピーカーケーブルと他のアンプのチャネルを接続端子の上の組（CST用ネットワーク）に接続します。必ずそれぞれケーブルの（＋）側をアンプの（＋）端子に、（－）側をアンプの（－）端子に接続してください。

ホリゾンタルバイアンプ接続例

この接続では、異なるステレオアンプをスピーカーシステムの低域（ウーファー再生帯域）と中高域（CST再生帯域）に使用できます（たとえば、高周波数に真空管アンプ、低周波数にソリッドステートなど）。下図のように、１つのアンプの各チャネルで各スピーカーシステムの低域（ウーファー再生帯域）を駆動し、他のアンプの各チャネルで中高域（CST再生帯域）を駆動します。

ウーファー部とCST部の間の不均衡が生じないように、この方式では、双方のアンプのゲイン（増幅率）がそろっている必要があります。ご不明な点は販売店にご相談ください。

その他

グリルネットの着脱

このスピーカーシステムにはグリルネットが付属しています。グリルネットを着脱するときは、次のように行ってください。

① 取り付けるときは、グリルネットの6カ所にある突起部を本体の穴部に合わせて、押し込みます。

② 外すときはグリルネットの下側を両方の手で持ち、手前に軽く引っぱってグリルネットの下側を外します。

③ グリルネットの真ん中を両方の手で持ち、手前に軽く引っぱってグリルネットの真ん中を外します。

④ 同じように、グリルネットの上側を手前に引っぱるとグリルネットは本体から外れます。

キャビネットのお手入れ

通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で５～６倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問・ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 型番：S-3EX
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ詳しく）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

保証期間中（1 年間）、および保証期間経過後の修理についてはお買い上げの販売店、または最寄りのサービスステーションにご相談ください。所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。なお、本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後８年間です。

補修用性能部品とは本機の性能を維持するために必要な部品です。

仕　様

形式 .... 位相反転式、トールボーイフロア型
防磁設計(JEITA)
スピーカー構成（3 ウェイ方式）
ウーファー .... 16 cm コーン型 x2
ミッド/トゥイーター
.... 同軸14 cmコーン型/3 cmドーム型
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 ....30 Hz～100 kHz
出力音圧レベル ....88.5 dB(2.83 V)
許容入力
最大入力(JEITA) .... 160 W
外形寸法
..............350 mm(幅) x 1224 mm(高) x 541 mm(奥行)
質量 ....48 kg
付属品 ....スパイク受け x3
脚固定用スペーサー（3 種類） x2
固定金具 x1
固定金具用ネジ x1
グリルネット x1
保証書 x1
ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内（裏表紙）
取扱説明書

- 上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

はパイオニア（株）の開発したＰＨＡＳＥ CONTROL技術コンセプトに基づき録音から再生までの位相特性のマッチングを図った製品に付与される商標です。

⚠ 注意

- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムです。設置のしかたによっては、色むらが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15分から30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色むらを発生するような場合には、スピーカーをさらに離してご使用ください。近くに磁石や磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070−800−8181−22　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーハパイオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成19年2月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.022

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

この取扱説明書は環境に配慮して、パルプの使用量を、2005年度製品より40 %削減しています。